

株式会社日本エム・ディ・エム

2026年3月期第2四半期(中間期)

決算説明会

2025年11月12日

代表取締役社長 弘中 俊行

東京証券取引所 プライム市場
証券コード:7600

Copyright © Japan Medical Dynamic Marketing, INC. All Rights Reserved.



- 目次 -

1 . 2026年3月期 中間業績結果	P. 3	2 . 2026年3月中間期の振り返り	P.18
- 連結売上高	P. 4	- 2026年3月期中間期の主な取組み結果	P.19
- 連結損益計算書	P. 5	- SAICOプロジェクト取組み状況	P.20
- 前年営業利益比較分析	P. 6	- 売上原価率悪化要因	P.22
- 期初予想対比 営業利益比較分析	P. 7	- コンプライアンス経営の強化	P.25
- 主要品目別連結売上高	P. 8	3 . 2026年3月通期業績予想	P.26
日本市場	P. 9	- 前提条件	P.27
- 日本国内売上高	P.10	- (修正後前年対比)通期連結損益計算書	P.28
- 日本国内売上高【人工関節】	P.11	- (期初予想対比)通期連結損益計算書	P.29
- 日本国内売上高【骨接合材料】	P.12	- (修正後前年対比)通期主要品目別連結売上高	P.30
- 日本国内売上高【脊椎固定器具】	P.13	- (期初予想対比)通期主要品目別連結売上高	P.31
米国市場	P.14	- 2026年3月期下半期の主な取組み	P.32
- 米国売上高	P.15		
- 米国売上高【人工膝関節】	P.16		
- 米国売上高【人工股関節】	P.17		

2026年3月期中間期業績結果

1

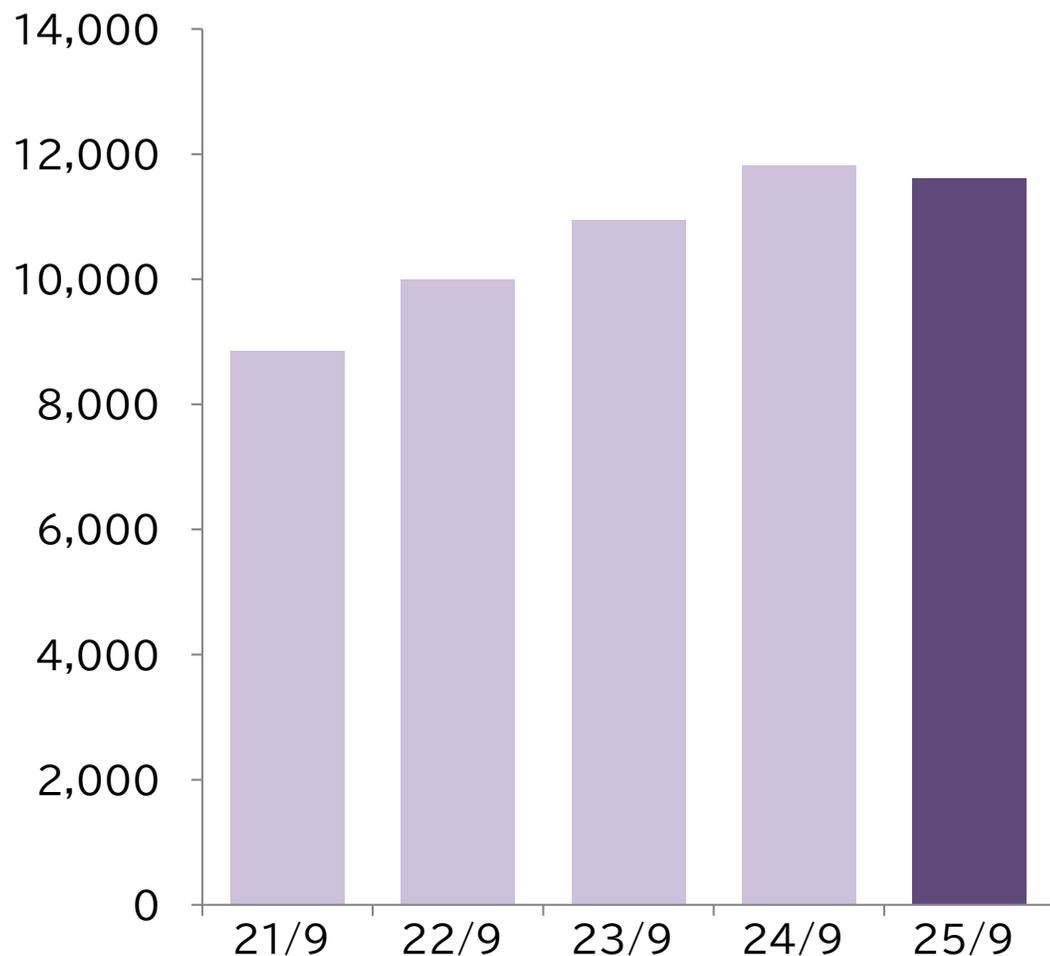
中間期売上高

増減率

(単位:百万円)

11,610百万円
(前年同期比 $\Delta 1.8\%$)

【売上控除後】



116億円
($\Delta 207$ 百万円)

日本



【売上控除後】

6,362百万円
(前年同期比 $+0.3\%$)

米国



【円換算後】

5,247百万円
(前年同期比 $\Delta 4.2\%$)
(為替影響 $\Delta 2.0$ 億円)

(単位:百万円、%)	2026年3月期 中間期		前年同期比増減		2025年3月期 中間期	
	実績	売上比	増減額	増減率	実績	売上比
売上高	11,610	100.0	△ 207	△ 1.8	11,817	100.0
売上原価	4,582	39.5	+272	+6.3	4,310	36.5
販管費	6,819	58.7	△ 18	△ 0.3	6,837	57.9
営業利益	208	1.8	△ 461	△ 68.9	669	5.7
経常利益	130	1.1	△ 534	△ 80.4	664	5.6
中間純利益*	69	0.6	△ 426	△ 85.9	496	4.2

* 親会社株主に帰属する中間純利益

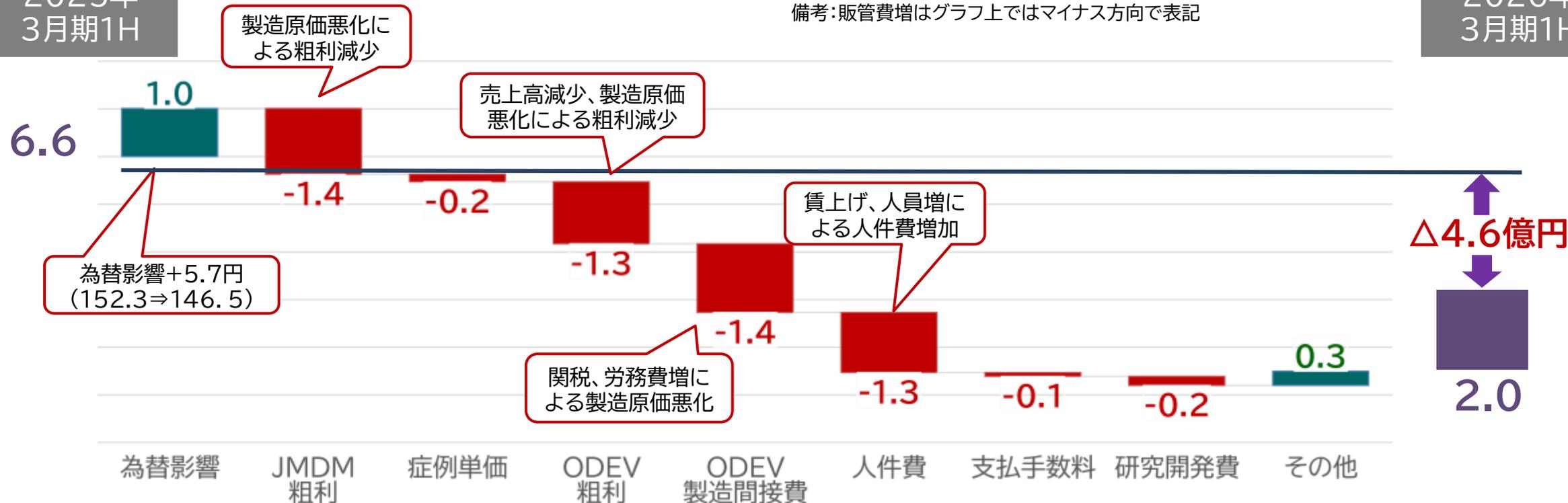
営業利益
2.0億円

営業利益は、売上高の減少及び製造間接費の増加により粗利減少(△4.3億円)、ODEV製品仕入・販管費に関する円高の影響(1.0億円)及び販管費が増加(1.3億円)した結果、前年同期比△4.6億円となった

2025年
3月期1H

2026年
3月期1H

営業利益:増減分析(単位:億円)
備考:販管費増はグラフ上ではマイナス方向で表記



← 売上減少、関税、労務費増による
製造原価悪化による粗利減少
(△4.3億円)

← 販管費増加
(△1.3億円)

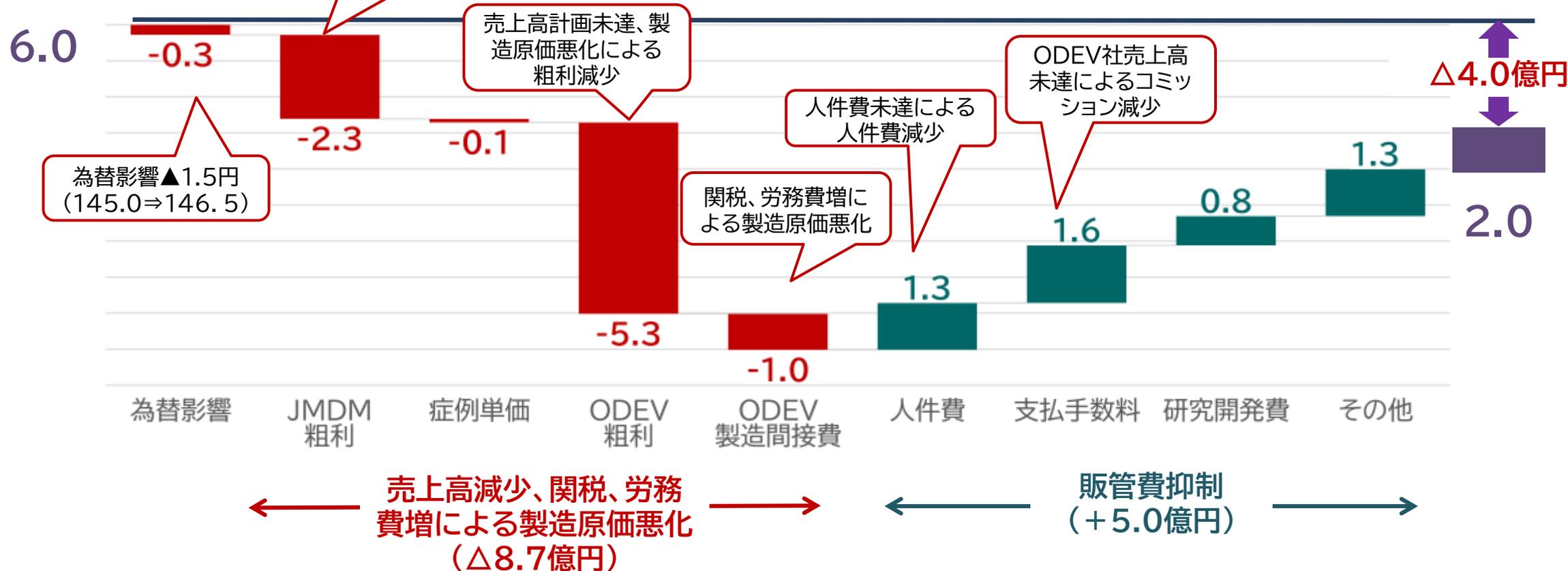
営業利益
2.0億円

営業利益は、売上高計画未達、関税、労務費増による製造原価悪化により、粗利が減少(△8.7億円)し、販管費を抑制(5.0億円)したものの期初計画比△4.0億円となった

2026年
3月期1H予想

営業利益:増減分析(単位:億円)
備考:販管費増はグラフ上ではマイナス方向で表記

2026年
3月期1H実績



主要品目別連結売上高

(単位:百万円、%)	2026年3月期 中間期		前年同期比増減		2025年3月期 中間期	
	実績	構成比	増減額	増減率	実績	構成比
日本国内売上高	6,362	54.8	+20	+0.3	6,341	53.7
人工関節	2,421	20.9	+48	+2.0	2,373	20.1
骨接合材料	2,088	18.0	△ 46	△ 2.1	2,134	18.1
脊椎固定器具	1,743	15.0	△ 6	△ 0.3	1,749	14.8
その他	198	1.7	+11	+5.9	187	1.6
小計	6,451	55.6	+8	+0.1	6,443	54.5
売上控除*3	△ 89	△0.8	+13	-	△ 102	△ 0.9
米国売上高*1	5,247	45.2	△ 228	△ 4.2	5,476	46.3
人工関節	5,238	45.1	△ 223	△ 4.1	5,461	46.2
脊椎固定器具	9	0.1	△4	△35.9	14	0.1
合計	11,610	100.0	△ 207	△ 1.8	11,817	100.0
自社製品売上高	9,241	79.6	△ 397	△1.3pt	9,638	80.9
USドルベース*2	35,802		△ 145	△ 0.4	35,947	
*1 期中平均換算レート(円/USドル)	146.58		△ 5.76		152.34	

*2 Thousands of dollars *3 売上控除:収益認識基準適用に伴う控除



日本市場





中間期売上高

増減率

6,362百万円
(前年同期比+0.3%)

(単位:百万円)

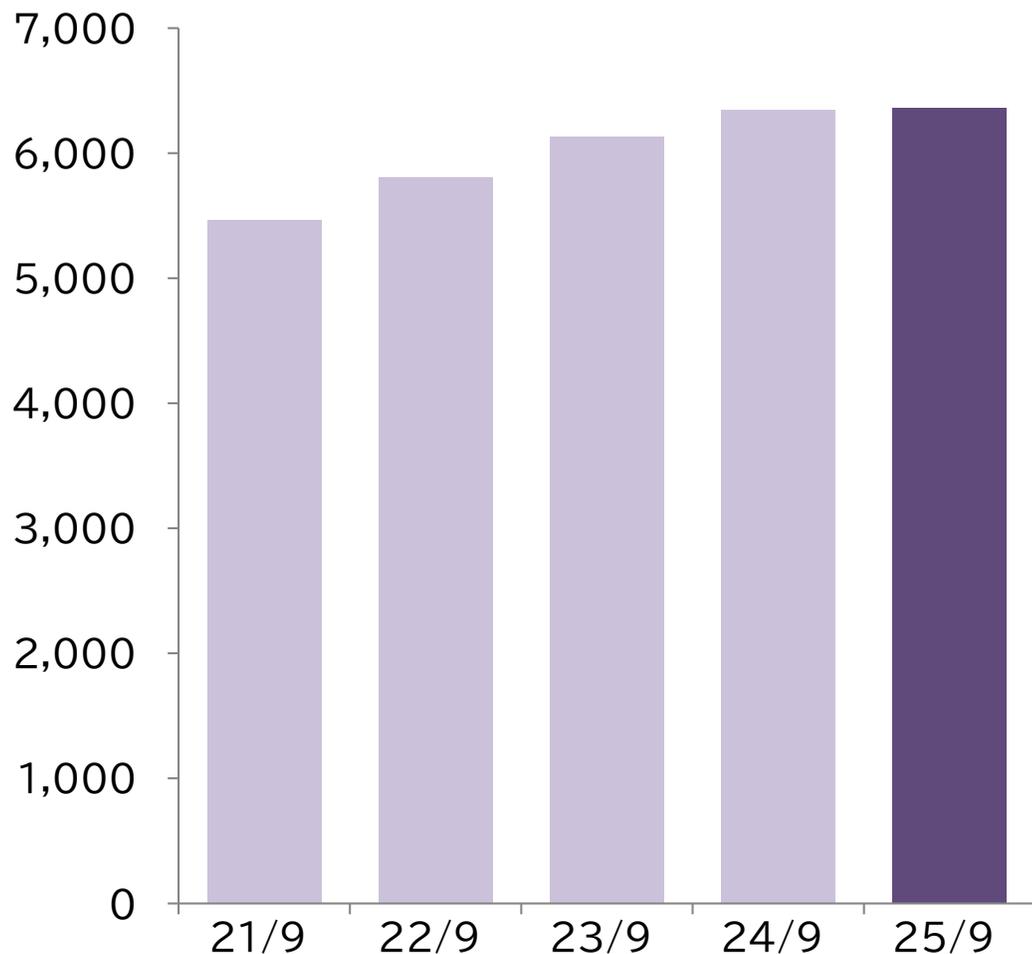
【売上控除後】

振り返り

63億円
(+20百万円)

✓ 中間期最高売上高更新

骨接合材料、脊椎固定器具分野の売上高が減少したものの、人工関節分野の成長により、日本国内売上高は前年同期比+20百万(+0.3%)となった



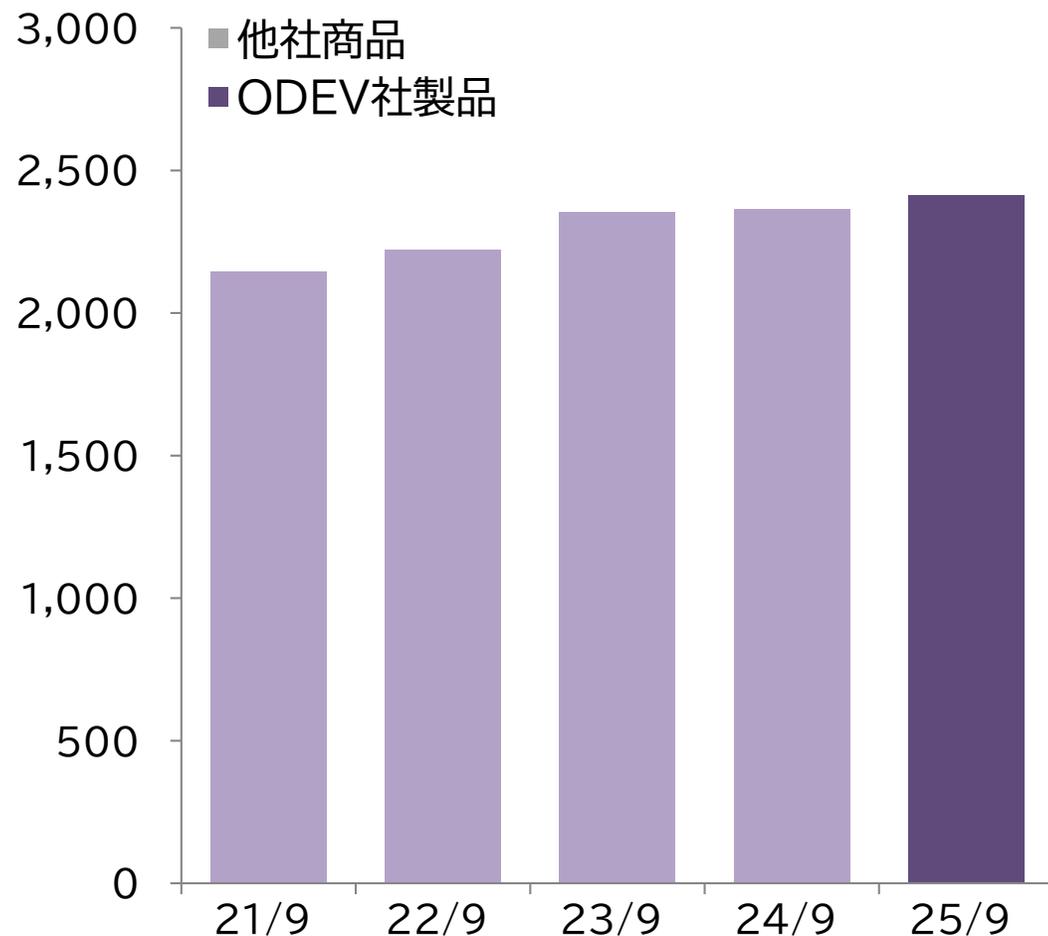


中間期売上高

2,421百万円
(前年同期比+2.0%)

増減率

(単位:百万円)



振り返り

【人工股関節】

- ✓ **THA(人工関節置換術)は、新規施設の獲得もあり2桁成長*1**
Entrada Hip Stemの獲得症例数が増加
- ✓ **BHA(人工骨頭挿入術)は、高水準前年同期に比べやや減少*2**
新製品Promontory Hip Stemの獲得症例数が増加

*1 THA:Total Hip Arthroplasty
*2 BHA:Bipolar Hip Arthroplasty

主力製品	新製品	
		
Entrada Hip Stem	Promontory Hip Stem	Ovation Tribute NEO Stem (2025年3月発売開始)

【人工膝関節】

- ✓ **前年同期比マイナス成長**

主力製品	新製品
	
BKS TriMax	Balanced Knee System Uni

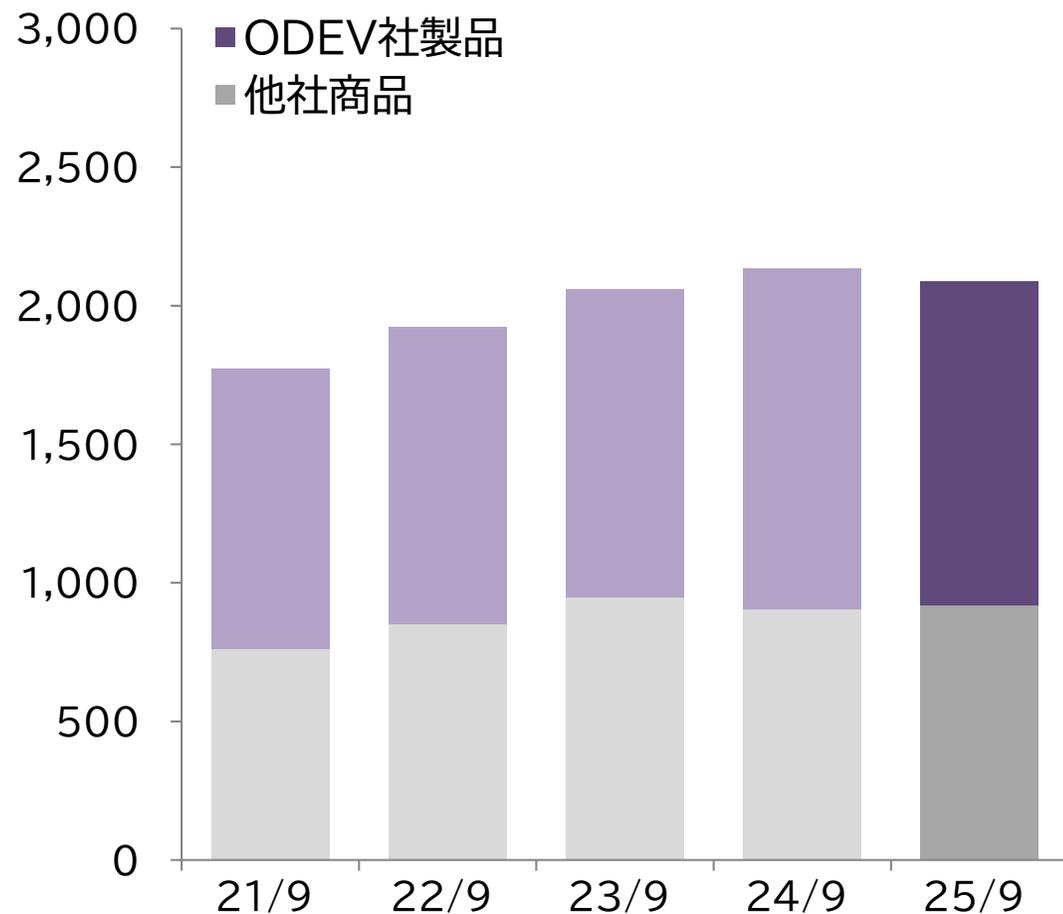


中間期売上高

2,088百万円
(前年同期比△2.1%)

増減率

(単位:百万円)



振り返り

- ✓ 主力製(商)品
 大腿骨頸部骨折治療製品 PHS
 大腿骨転子部骨折治療材料 ASULOCK
 とともに競争激化により、前年同期比 **1桁成長**
- ✓ 製品ポートフォリオ見直しによる販売中止予定製品
 や猛暑の影響による手術件数減により、Screw &
 Plate等の売上高が減少

主力製品・商品



PHS



PHS Side Plate



ASULOCK

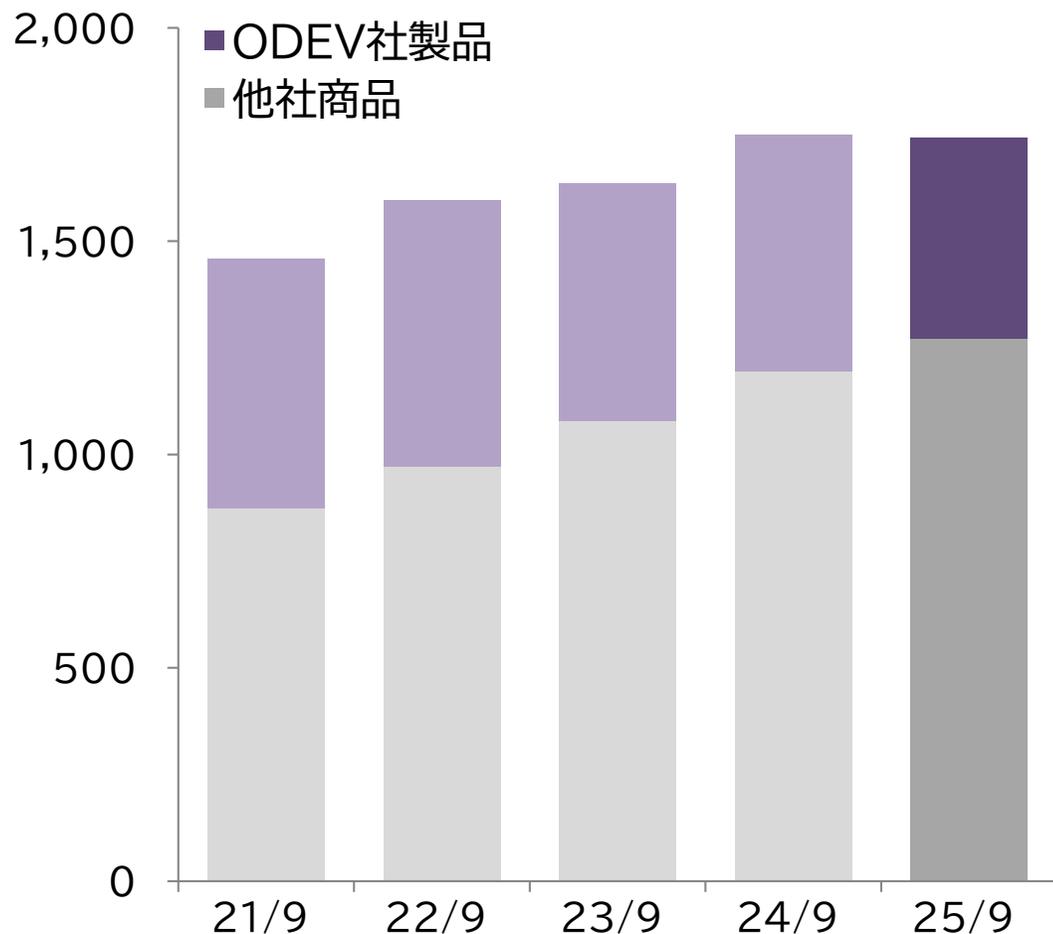


中間期売上高

増減率

1,743百万円
(前年同期比△0.3%)

(単位:百万円)



振り返り

- ✓ BKP:KMC Balloon Kyphoplasty
市場拡大に伴い、2桁成長継続
- ✓ Pedicle Screwなどの獲得症例数が減少

主力製品・商品



Lince Plate



Linceα Plate



Vusion Ti 3D
ケージ



Vusion ARC
ケージ



KMC Balloon Kyphoplasty



米国市場





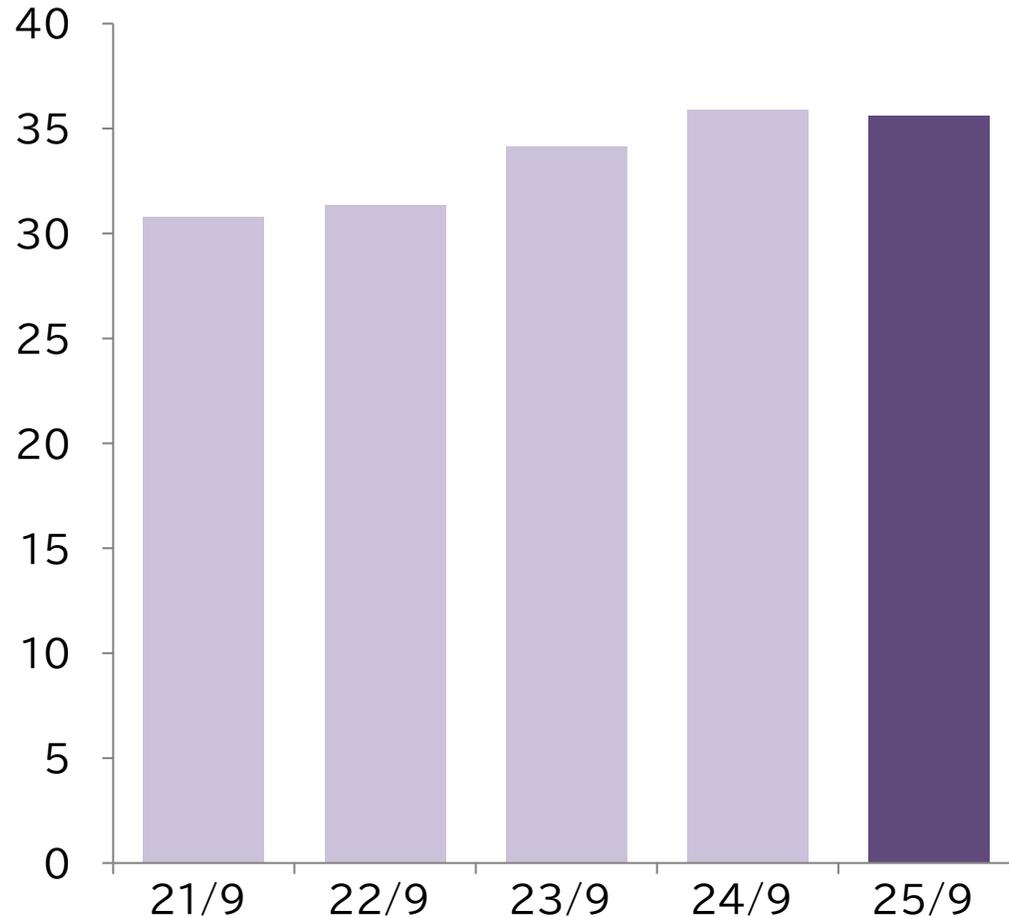
中間期売上高

\$35.8M

増減率

(前年同期比 $\Delta 0.4\%$)

(単位: Million of dollars)



振り返り

52億円

($\Delta 228$ 百万円)

- ✓ 米国売上高は、一時的な供給制約の影響を受けた製品の売上高減少の影響により減収

【期中平均換算レート：146.58円/USドル】

(前年同期: 152.34円/USドル)



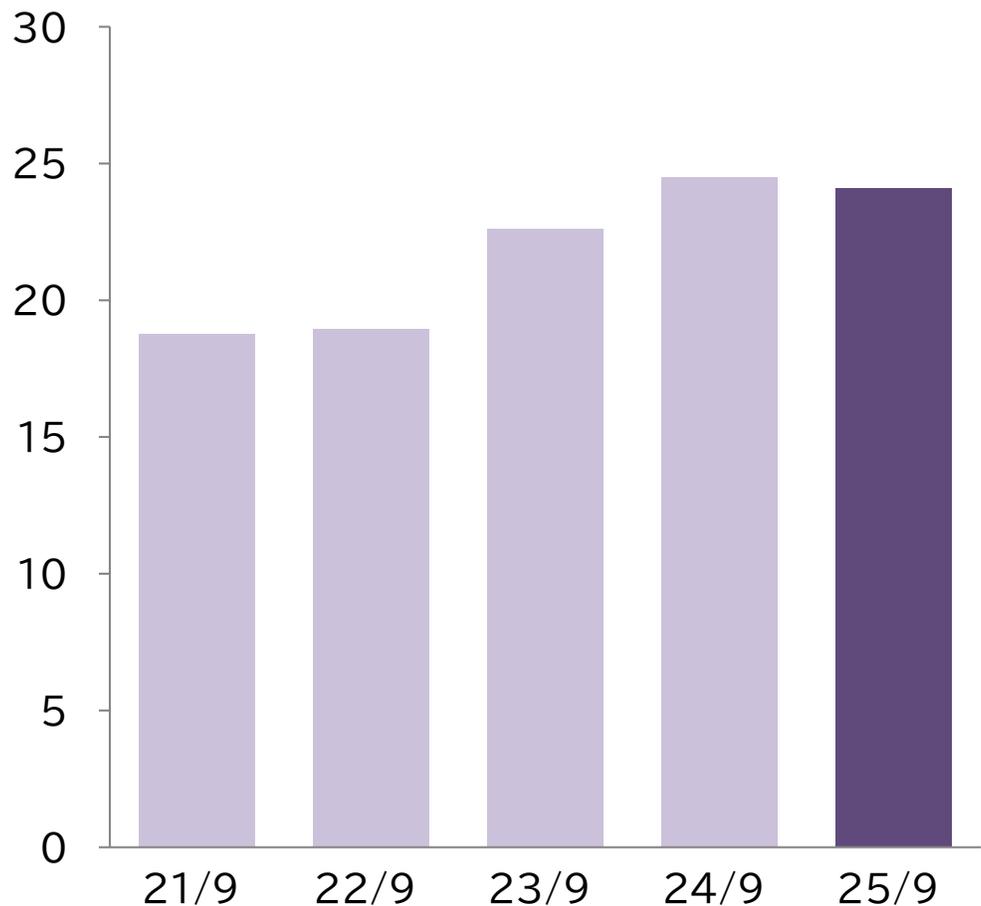
中間期売上高

\$24.1M

増減率

(前年同期比△1.7%)

(単位: Million of dollars)



振り返り

- ✓ BKS TriMax : 2桁成長継続
- BKS Revision Knee : 2桁減収
外部に製造委託している一部のコンポーネントで納期遅延が原因

主力製品



2桁成長

BKS TriMax



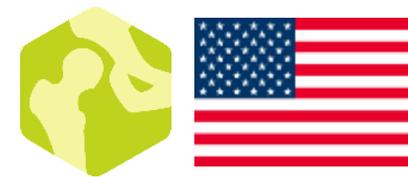
2桁減収

BKS Revision Knee



BKS Uni

* DePuy Synthes 社向け「KASM」販売等除く



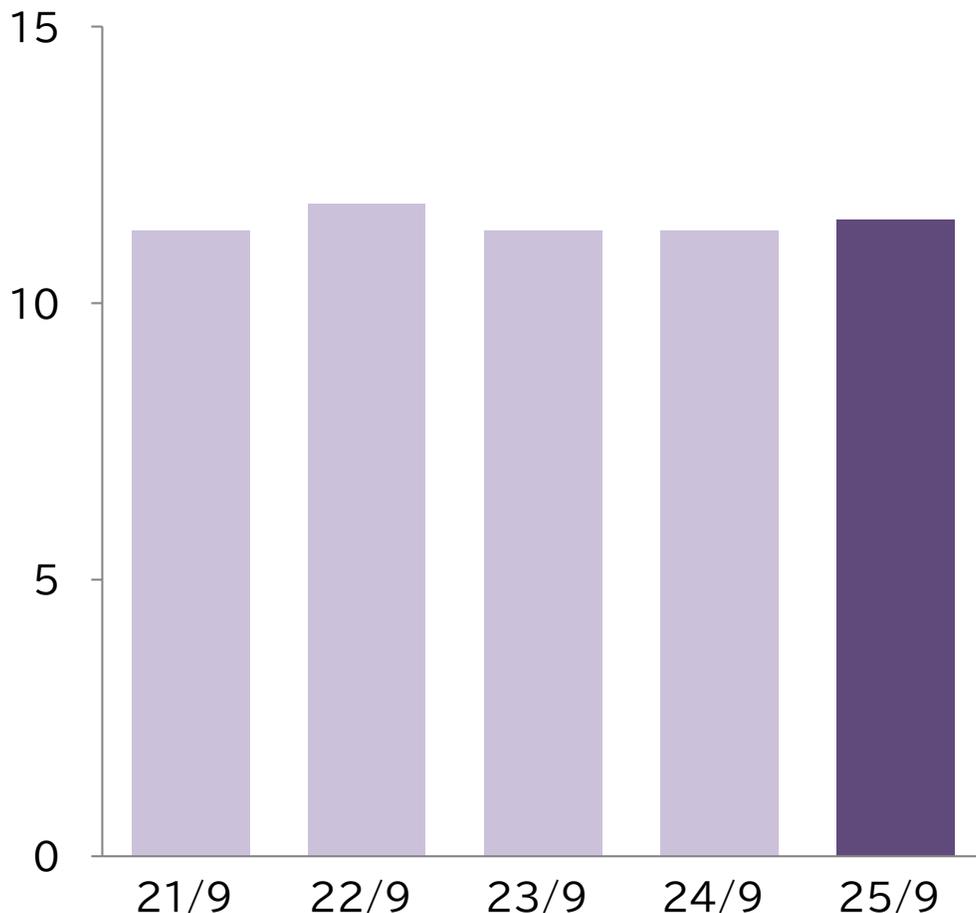
中間期売上高

\$11.5M

増減率

(前年同期比+1.9%)

(単位: Million of dollars)



* DePuy Synthes 社向け「KASM」販売等除く

振り返り

- ✓ 新製品Trivicta Hip Stem : 成長加速
- ✓ Entrada Hip Stem : 獲得症例数減少

新製品 Trivicta Hip Stem
市場トレンドTriple TaperタイプのStem導入



- 2024年3月、FDA薬事承認取得
- 2024年9月、初症例実施
- 2026年3月期Q3から全米販売開始予定

➡ 新規顧客獲得により売上高
拡大を目指す

主力製品



症例
数減



2桁
成長

Entrada Hip Stem

Ovation Tribute Stem

2026年3月期中間期の振り返り

2



	地域	取組み内容		
開発		• 製品ポートフォリオ見直し		
		• 製品ラインアップ拡充のために新製品開発を加速		
製造		<ul style="list-style-type: none"> • 自社製造能力強化による製造原価低減 • 調達力強化によるコスト削減・リスク低減 	<p>SAICOプロジェクト取組み状況</p> <p>20ページ</p> <p>20ページ 21ページ</p>	
		• 中国製人工膝関節の製造開始及び拡大	21ページ	
		<ul style="list-style-type: none"> • 注力製品、新製品による売上高拡大 人工股関節新製品「Ovation Tribute NEO Stem」販売開始 • 営業体制の強化(4/1、事業本部制へ組織変更) 	22ページ	専門性を強化し新規顧客獲得
販売		<ul style="list-style-type: none"> • 新製品を梃子に新規顧客獲得 人工股関節新製品「Trivicta Hip Stem」販売開始 人工股関節分野の成長に寄与 	23ページ	
		• 中国製人工膝関節の販売拡大		計画通り順調

SAICOプロジェクト取組み状況

SAICOプロジェクトとは・・・

Strategic Actionable Initiatives for Cost Optimizationの略称。
当社グループの「自社製造能力強化によるコスト削減」及び、
「調達力強化によるコスト削減」を目的として発足したプロジェクト。

1. 自社製造能力強化による製造原価低減

設備投資による製造能力強化(ODEV社)

ODEV社で増設した製造設備(一例)

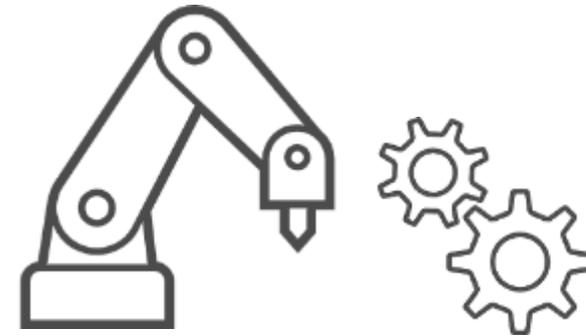


- ODEV社において、製造設備を増設
- 自社製造比率を2027年3月期目標40%達成に向け、製造能力強化を推進中

2-1. 調達力強化によるコスト削減・リスク低減

サプライヤーの複社化

ODEV社において、製造プロセスの一部を
複数社のサプライヤーに製造委託開始



- サプライヤーの複社化により、ODEV社の製造・供給能力を強化、安定供給体制を構築する
- 複社化によるコスト低減を見込まれる
- 人工膝関節において新規サプライヤーの納期遅延による供給制約が発生中

SAICOプロジェクト取組み状況

2-2. 調達力強化によるコスト削減・リスク低減

中国製医療工具(WOMA社製)の調達

人工膝関節製品「BKS TriMax」の医療工具(一部)



- 2024年2月から米国市場向けに、「BKS TriMax」の医療工具を供給開始
- 米国での製造より△30%のコスト削減を実現したものの、トランプ政権相互関税の影響を注視中

マレーシアを含むアジア地域への生産移管

- 日本市場で販売する製品をマレーシアを含むアジア地域への生産移管を進める
- 米国での海外調達による米国相互関税の影響を回避
- 日本への直接出荷の実現可能性を検討

2-3. 調達力強化によるコスト削減・リスク低減

日本国内での円貨調達による製造原価低減

人工股関節用フェモラルヘッド
新商品「JMDM BIOCERAM AZUL セラミックヘッド」*1
(2025年3月から日本国内で順次販売)



*1 BIOCERAM AZUL は京セラ株式会社の登録商標

- 主力製品の一部を米国から日本での調達に切り替え、為替リスクを回避し仕入原価の低減が可能

【日本国内新製品情報】 人工股関節 Ovation Tribute NEO Stem

日本市場において、当社の人工股関節製品群に新たなコンセプトの新製品が加わり、国内販売拡大に期待



人工股関節大腿骨ステム 「Ovation Tribute NEO Stem」



【本新製品の特長】

- 日本人向けの治療材料として開発
 - ➔ ネック形状が日本人に適しているだけでなく、ステム全長が従来製品より短く、骨温存が可能
- 身長の高い患者さんにも対応
- 医療工具への設備投資抑制に寄与
 - ➔ 従来製品OVATION Tributeヒップ ステムの医療工具と共通化

2025年3月
Ovation Tribute NEO Stem 追加販売開始



Ovation Tribute Stem Series 全体

4%成長(Q2累計)

【米国新製品情報】 人工股関節 Trivicta Hip Stem

米国市場にてニーズが拡大しているトリプル・テーパー形状の新製品「Trivicta Hip Stem」の全米販売を開始し、新規顧客獲得を目指す



トリプル・
テーパーステム

人工股関節大腿骨ステム
「Trivicta Hip Stem」



【本新製品の特長】

- ステムの形状が3つの平面を有するテーパー形状
 - ➔ 軟部組織を温存する手術手技に対応しており、患者の多様な髓腔形状にフィットすることが期待
- 焼結ビーズコーティング
 - ➔ ビーズ内での骨成長を促し、長期の安定的な固定の促進を期待
- ハイドロキシアパタイト(HA)コーティング
 - ➔ HAコーティングが生物学的な固定の促進を期待

2026年3月期 Q3から全米販売開始予定

2024年9月販売開始

2026年10月αローンチ終了(セット数30セット)

30セット⇒80セットに増産

【Trivicta Hip Stem売上高推移】



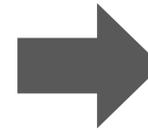
➡売上原価率 39.5%(前年同期比+3pt)

サプライヤーの供給問題による減収

- ➡人工膝関節製品「Balanced Knee System – Revision」
など主力製品の供給制約により売上高減少

労務費等間接費コスト増、トランプ 政権相互関税による製造原価悪化

- ➡ 米国におけるASP(症例単価)の下落
- ➡ 労務費等間接費コストが増加
- ➡ 米国相互関税+1.0億円



➡SAICO Project

- 自社製造拡大
- サプライヤー複社化
- 自社製造コスト改善
- マレーシアなどから
日本へ直接出荷する
スキームの構築



- 効率的サプライ
チェーンの整備
- 売上原価率低減

米国子会社で発生した損害賠償請求訴訟に関する再発防止策の取り組み

プロジェクト
フェーズ

1

■ 再発防止策の取り組み

プロジェクトフェーズ1

1. 2025年7月：外部コンサルタント活用
2. 再発防止アクションプログラムに基づく取り組み着手・進捗管理
3. 社内規定改訂

プロジェクトフェーズ2

1. 米国政府や業界ルールに基づく社内規定追加
2. 従業員向けコンプライアンス研修実施
3. 2026年1月：チーフ・コンプライアンス・オフィサー採用



プロジェクト
フェーズ

2

2026年3月期通期業績予想

3

前提条件

2026年3月期 通期連結業績予想における前提条件

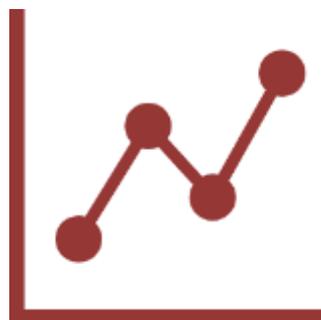
為替レート(USDドル)



想定為替レート
下半期152.0円
(円/USDドル)

2025年3月期(実績)
152.5(円/USDドル)

為替感応度



下半期営業利益
1円あたり約15百万円



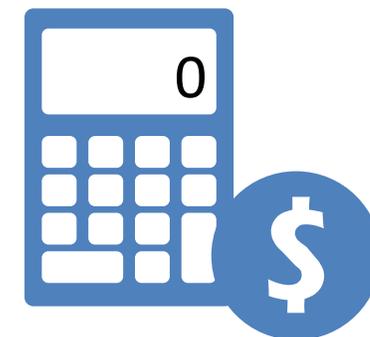
償還価格引下げ



償還価格引下げ影響なし

2025年3月期(実績)
15百万円(0.1%)

製造原価



米国トランプ政権
追加関税
影響US\$0.7M

NA

(単位:百万円、%)	2026年3月期(通期)		前期比増減		2025年3月期(通期)	
	予想	売上比	増減額	増減率	実績	売上比
売上高	24,800	100.0	△ 314	△ 1.3	25,114	100.0
売上原価	9,900	39.9	+432	+4.6	9,467	37.7
販管費	14,200	57.3	+109	+0.8	14,090	56.1
営業利益	700	2.8	△ 855	△ 55.0	1,555	6.2
経常利益	550	2.2	△ 938	△ 63.1	1,488	5.9
当期純利益※	300	1.2	+761	—	△ 461	△ 1.8

※親会社株主に帰属する当期純利益

(単位:百万円、%)	2026年3月期(通期)		増減		期初予想	
	予想	売上比	増減額	増減率	予想	売上比
売上高	24,800	100.0	△ 1,600	△ 6.1	26,400	100.0
売上原価	9,900	39.9	+150	+1.5	9,750	36.9
販管費	14,200	57.3	△ 600	△ 4.1	14,800	56.1
営業利益	700	2.8	△ 1,150	△ 62.2	1,850	7.0
経常利益	550	2.2	△ 1,150	△ 67.6	1,700	6.4
当期純利益※	300	1.2	△ 1,150	△ 79.3	1,450	5.5

※親会社株主に帰属する当期純利益

(単位:百万円、%)	2026年3月期 予想		前期比増減 増減額		2025年3月期 実績	
	構成比		増減率		構成比	
日本国内売上高	13,700	55.2	+66	+0.4	13,634	54.3
人工関節	5,350	21.6	+112	+2.2	5,237	20.9
骨接合材料	4,620	18.6	△33	△0.7	4,653	18.5
脊椎固定器具	3,520	14.2	△23	△0.7	3,543	14.1
その他	410	1.7	+2	+0.5	407	1.6
小計	13,900	56.0	+57	+0.4	13,842	55.1
売上控除 *3	△ 200	△0.8	+8	△4	△208	△0.8
米国売上高 *1	11,100	44.8	△379	△3.3	11,480	45.7
人工関節	11,090	44.7	△363	△3.2	11,449	45.6
脊椎固定器具	10	0.0	△20	△67.4	30	0.1
合計	24,800	100.0	△314	△1.3	25,114	100.0
自社製品売上高	19,890	79.6	△553	△1.1pt	20,443	80.7
USドルベース *2	74,457		△822	△1.1	75,279	
*1 期中平均換算レート(円/USドル)	149.08		△3.42		152.50	

*2 Thousands of dollars *3 売上控除:収益認識基準適用に伴う控除

(期初予想対比)通期主要品目別連結売上高

(単位:百万円、%)	2026年3月期 予想		増減		期初予想	
	予想	構成比	増減額	増減率	予想	構成比
日本国内売上高	13,700	55.2	△650	△4.5	14,350	54.4
人工関節	5,350	21.6	△150	△2.7	5,500	20.8
骨接合材料	4,620	18.6	△180	△3.7	4,800	18.2
脊椎固定器具	3,520	14.2	△180	△4.9	3,700	14.0
その他	410	1.7	△140	△25.5	550	2.1
小計	13,900	56.0	△650	△4.5	14,550	55.1
売上控除 *3	△200	△0.8	0	-	△200	△0.8
米国売上高 *1	11,100	44.8	△950	△7.9	12,050	45.6
人工関節	11,090	44.7	△930	△7.7	12,020	45.5
脊椎固定器具	10	0.0	△20	△66.7	30	0.1
合計	24,800	100.0	△1,600	△6.0	26,400	100.0
自社製品売上高	19,890	80.2	△1,320	△0.1pt	21,210	80.3
USドルベース *2	74,457		△8,646	△10.4	83,103	

*1 期中平均換算レート(円/USドル)

149.08

+4.08

145.00

*2 Thousands of dollars *3 売上控除:収益認識基準適用に伴う控除

	地域	取組み内容	
販売		<ul style="list-style-type: none"> 事業本部制による専門性・営業体制強化による販売拡大 注力製品、新製品による売上高拡大 	 <p>日本エム・ディ・エム JAPAN MEDICAL DYNAMIC MARKETING</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 新製品「Trivicta Hip Stem」の全米展開による販売拡大 	 <p>ORTHO DEVELOPMENT</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 中国製人工膝関節の販売拡大 	
開発		<ul style="list-style-type: none"> 人工関節分野製品のαローンチ 	 <p>华森奥斯欧 WASTONORTHO</p>
製造		<ul style="list-style-type: none"> サプライチェーン問題の解決、安定供給体制の再構築 SAICOプロジェクトによる製造原価低減 調達力強化によるコスト削減・リスク低減 	
		<ul style="list-style-type: none"> 中国製人工股関節の薬事承認取得、及び製造開始 人工膝関節の製造拡大 	

最先端の優れた医療機器の開発と販売を通じて、医療に貢献する

お問い合わせ先

株式会社日本エム・ディ・エム IR室

E-MAIL

ir@jmdm.co.jp

IRサイト

<https://www.jmdm.co.jp/ir/>



将来の見通しに関する記述について

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
- 実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。